活動報告③-２

# 臨時快速おがちゃん号

**2009.4.11(IGR いわて銀河鉄道・青い森鉄道)**

**尾形 明範**

電子オルガンを走行中の電車内に搭載して、しかもライブをしたらどうなるのか。

楽器を問わずに電車内でのライブということだけとってみるならば、都電荒川線なり走行距離もさほどでもない路線での貸切列車、あるいは、もともとが観光列車であるものにイベントとして特定区間でライブをしている路線に実績がある(JR 東日本五能線「リゾートしらかみ」信越本線「越乃 Shu*Kura」ほか)。

2009.4.11､今回ご紹介する臨時快速｢おがちゃん号」は、分割民営化以前に国鉄に勤めていたことのある筆者の父が定年退職するに際してその記念に企画した、八戸～盛岡往復(片道 100 キロ超)の貸切列車である。

□企画・構想

父の定年退職。月並みに考えれば家族全員で函館の湯の川温泉あたりの、すこしいい宿に一泊が妥当かということにもなろうが、八戸から函館までの全員分をあわせると諸経費は家族四人で 24 万円はかかる。

そんな折、筆者の実家のある八戸市の隣の岩手県、IGR いわて銀河鉄道(盛岡～目時)のホームページを何気なく見ていたら｢貸切列車ご案内」とある。しかし、直通運転している青い森鉄道(2008 年当時、目時～八戸まで)の乗り入れに際しては別途相談してほしいとのくだりがある。IGR いわて銀河鉄道の盛岡～目時の区間が 15 万円、それに、別途問い合わせでホームページ上に料金表示のない青い森鉄道の目時～八戸をあわせても、目時～八戸の運行区間が短いことを考えれば、推測で 5 万円程度であろうし、合計 20 万円強であろう。これなら家族で月並みの函館湯の川温泉とほぼ同額でありながら多くの方の思い出に残すことができる(実際は青い森鉄道に乗り入れ実績がないため、青い森鉄道からは人数分の往復運賃で約 9 万円の請求。団体割引は一切なかった。また、当時も今も、青い森鉄道に貸切列車は大々的に行っていない)。臨時快速おがちゃん号の構想はここから始まる。

2008 年 8 月、父の在職最後の夏、八戸市中心街のスナックで父と飲みながら、湯の川温泉案と貸切列車案、どちらがいいかを直接尋ねると、父の返答に迷いはない。分割民営化とともに国鉄から八戸市役所へ移った父の夢が「ブルートレインの車掌がしたかった」であったことも、このとき初めて聞いた。

鉄道を愛好する筆者としては、やるならば徹底してやりたい。専用に切符を用意、ヘッドマークを装着、父にトロンボーンも吹いてもらう(盛岡鉄道管理局でブラスバンドをしていた)、可能ならば警笛も長めに鳴らす。エレクトーンも載せてしまう、というのもそのひとつであった。列車には多くの人たちが乗ってくるだろうが、普通に往復したらただの宴会列車になってしまう。エレクトーンは八戸在住時にお世話になったヤマハミュージック東北八戸店にお願いし、ELX1m をお借りするに至った。

写真・特別に組まれた運行ダイヤ。運転席に掲げられた。

2009 当時には ELS-O1X も存在していたが､エレクトーンの見た目を重視する筆者の意向により、敢えて ELS-01X の選択を避けている。

□運行までの道のり

～以下からは走行中のエレクトーンライブを想定して

の内容を中心にして進めてゆく～

ここから先は、IGR いわて銀河鉄道の担当者と話を詰めていくことになるが、本番に利用する実際の車両にも出向いたり、実際の走行区間を乗ったりして想定しなければならない。

写真・盛岡～八戸を往復するおがちゃん号に搭載された ELX1m。車椅子スペースにぴったりと収まる。

一番の問題は電源確保及び、エレクトーンスペースの確認である。幸い、電源は運転席に AC100V コンセントがひとつ装備されており、ここから引っ張れることを確認した。今回使用する車両 IGR7000 系 2 両編成(セミクロスシートタイプ)は、編成盛岡方には車椅子対応スペースがあり、これが ELX1m に適するものかを実際に測る必要がある。運行中にというわけにいかず、IGR いわて銀河鉄道祭りで好摩駅構内に展示留置されていたものを測った。測ればエレクトーン用に確保したのではないかと思うジャストサイズで無駄がない。

あとは、本体からのスピーカー210W だけでなんとか

なるかの懸念。しかし、電車の車内スピーカーにオーディオ入力端子の類はなく、本体一台でやらなくてはならない。二両目に別スピーカーを用意したりはせず、特に演奏を聞きたい方だけ、一両目に聞きにきてもらうことにした。

停車駅での演奏中に乗降ドアのチャイムが鳴るのも困る。ワンマン運転でも営業する IGR はドア開閉の際に注意喚起のためにドアチャイムが鳴る。これは前もって整備車庫で切った状態にしてもらうこととした。

また、実際に盛岡～八戸(エレクトーンライブは下り列車のみ)で実際に演奏した際、どれだけの揺れや衝撃があるのか。駅構内のポイントの衝撃、山間区間での揺れ、演奏不適の区間がどれだけあるか。全区間の実際の乗車での一駅一駅のすべての検討結果より演奏区間は青山～沼宮内、一戸～八戸と決定した。全体区間の三分の二である。

□おがちゃん号運行日

2009.4.11、天気快晴。主役は赤い「車掌長」の腕章が巻かれた父。町内会、市役所、友人、知人、計 86 名の乗客にはシリアルナンバー入り特別切符が乗客に配られ、おがちゃん号は特製ヘッドマークをつけて八戸駅三番線に誇らしげに入線してきた。

飲食がしやすいよう、盛岡からの回送時に長テーブル設置の状態にしてもらっており、乗客は席に着くなり、各々持ち込みの酒、つまみを広げて発車前から大宴会。こちらで用意した弁当を一人ひとりに配るほかに、用意したビール 6 ケースは片道だけで 5 ケースなくなってしまう始末。緊急策で、復路の滝沢駅で 1 ケース追加購入するに至った。

八戸駅発車時には、長い長い警笛が鳴らされた。駅構内の状況から難しいとも言われたが、特別な配慮をしていただいた。構内を抜け、スピードが上がったころで、自作の鉄道唱歌のチャイムをエレクトーンで流し(IGR の車両には鉄道唱歌のオルゴールは搭載されていない)、車掌長の挨拶と相成った。

写真・車掌長による車内検札。鋏は著者の JR の友人から借りた本物の補充券改札鋏。

上り盛岡行きは走行時間が片道一時間半。盛岡駅でいったん乗客を降ろしておがちゃん号は車庫に引き上げる。筆者は引き上げた車庫においてエレクトーンライブのリハーサルを行った。静まり返った車内に響き

渡る音は、スピーカーの音量最大で、二両目の端にまで十分聞こえている。しかしこれなら問題あるまいと思った予測は甘く、実際は走行音と談笑にかき消されて一両目の端に届くのがせいぜいであった。

写真・盛岡駅に掲げられた電光表示。

第一部、青山駅以降演奏を開始、一曲目、二曲目は窪田宏の「THE ELECTRIC FUTURE」「CHATTANOOGA CHOO CHOO」であった。これは窪田宏のデビューアルバムからの二曲であり、アレンジはこれを可能な限り再現している（FX-1 のリズム、フェイザーを含めたリズミックコード、オートベースの打ち込み部分は外部音源により鳴らしてある)。

肝心の走行中の揺れであるが、ある程度演奏に適している区間を狙っているとはいえ、時速 100 キロで走行する車内である。派手なアクションはできず、常に体の重心を支えている必要があった。停車している車内とは話が違うのである。

写真・演奏中の著者。走行中の車内に ELX1m の音が響く。

次の 3 曲は著者がよく演奏するナンバー「風の旅」、滝沢駅での停車時には車掌長のトロンボーンと「思い出のサンフランシスコ」、発車後は再びソロで「A Long Afternoon」などが続き、ここで第一部を終了する。

山間部での演奏不適区間終了ののちの二戸駅での停車時にゲスト陣岡正氏が FM 岩手のテーマ曲「幻夢界」を演奏、二戸発車時からは第二部を再開。こちらはボーカルのゲストを迎えての展開とした。絵美夏氏とは「Feel Like Makin'Love」毛利誠司氏とは「心の酒・岩手川」「好きだ Dear!八戸せんべい汁」、往復ですっかり出来上がった乗客もさらに盛り上がってきた。

急カーブで演奏の厳しい諏訪ノ平通過後にラストの「It's Too Late」をもってきた。午後に盛岡を出発したがあたりはすっかり夜の闇、演奏しながら遥かに見える街灯りが車窓に流れていく。終日貸切列車で大宴会をしながらエレクトーンライブという異空間。誰もが降りたくないおがちゃん号、終着駅ひとつ手前の北高岩で車掌長のお礼の車内放送。多くの思いを乗せた列車は八戸駅一番ホームにゆっくりと滑り込んだ。

□YouTube「臨時快速おがちゃん号」で一部ご覧になれます。

(敬称略/順不同)

「臨時快速おがちゃん号」
主催)尾形音楽研究所
協力) IGR いわて銀河鉄道株式会社
青い森鉄道株式会社
藤田啓(IGR いわて銀河鉄道株式会社)
ヤマハミュージック東北八戸店(現・東京堂)
仙台運送株式会社
株式会社みなとや（スーパーみなとや)
パブリックレコード株式会社
取材)デーリー東北株式会社
東奥日報株式会社
（エレクトーン奏者　おがた あきのり）